

教えて! Q&A

今日のテーマ



オーストラリア

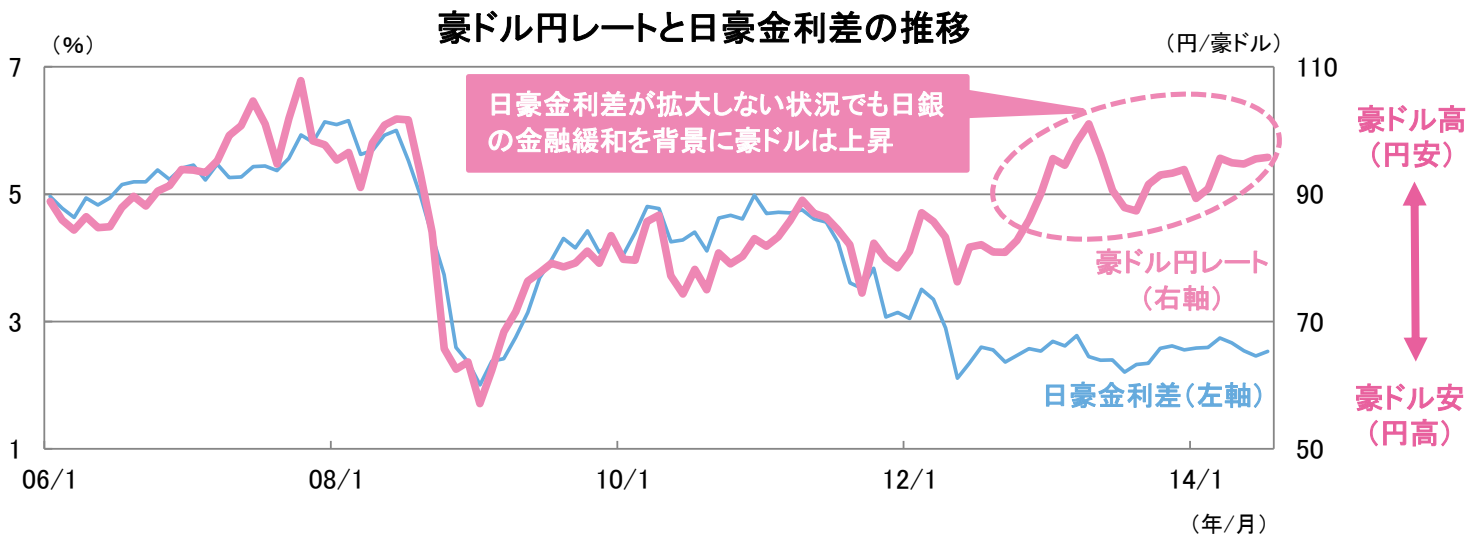
豪ドルの見通しについて

Q 豪ドルは今後も底堅く推移しそうですか？

A 日銀の金融緩和を背景に、豪ドルは対円で底堅い推移が見込まれます。米国の利上げが早まる場合や、豪州の景気が下振れる場合に注意が必要です。

■豪ドルは、2012年後半以降、相対的な高金利や日銀の金融緩和などにより対円で上昇傾向です。足元では中国政府による景気刺激策も豪ドルを支える要因と見られます。

■豪ドル円レートと日豪金利差の推移を見ると、2012年ごろから両者の連動性が薄れています。日豪金利差が拡大しない状況でも、日銀の金融緩和策などを背景に豪ドルは上昇しました。



今後の展開 相対的に高い金利水準と信用力を背景に豪ドルは底堅さを維持

■豪州と主要国の政策金利は当面据え置かれる見込みであり、豪ドルの相対的な高金利は継続しそうです。また、日銀の金融緩和の継続が見込まれることから、対円で豪ドルは底堅さを維持しそうです。

■中長期的には、相対的に高い金利水準と豪ドル建て債券の信用力、主要な貿易相手である中国の高めの経済成長などが上昇要因と見られ、豪ドルは今後も底堅く推移しそうです。

■米国の利上げが早まる場合や、資源価格の下落などにより豪州の景気が下振れる場合は、豪ドルの下落要因として注意が必要です。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。